

石見銀山協働会議会報

第1号

平成27年3月

特定非営利活動法人石見銀山協働会議

石見銀山協働会議会報

目 次

はじめに	波多野 諭	3
○短報		
「第5回 世界遺産学習全国サミット INなら」に参加して	武田祐子	5~7
ガイド養成講座	石見銀山ガイドの会	8~9
石見銀山とその周辺の光り物	松浦良彦	10~12
石見銀山基金を活用した文化財の修復	大田市石見銀山課	13~15
「石見銀山三日籠り」 参加者たちは今	法正久美子	16~17
三重津 世界遺産の繋がり 『明治日本の産業遺産革命』 —三重津海軍所跡の世界遺産登録を願って—	波多野 諭	18~19
○事業報告		
1.平成26年度事業		21~26
2.平成25年度までの事業		27~34
○石見銀山基金事業		
1.平成23年度石見銀山基金事業		35
2.平成24年度石見銀山基金事業		36
3.平成25年度石見銀山基金事業		37~38

会報の発刊に当たって

NPO法人石見銀山協働会議 理事長 波多野 諭

こんにちは、この度NPO石見銀山協働会議の会報をお届けすることになりました。

平成19年7月2日、『石見銀山』が世界遺産登録を受けてから、月日の立つの早いものではや7年が過ぎます。これまでの間、『石見銀山』は地域の活性化と過疎脱却に向けて、大きな期待感をもたらしてくれました。

私たちは

- 1.石見銀山の価値を理解し、伝えます。
- 2.石見銀山の価値を理解し、育みます。
- 3.石見銀山の価値を理解し、高めます。

を合い言葉に保全と活用に向けて活動を続けています。

世界遺産登録10周年に向かって、私たちは今、石見銀山との絆をより強く結び、ご縁の輪を広げて、石見銀山基金事業をより効果あるものにするために認定NPOとしての申請をいたします。行政と民間が手を取り合って力を合わせることが、“未来へ引き継ぐ石見銀山”の価値を高めると思います。これまで4年間、石見銀山基金は「守る」、「伝える」、「究める」、「活かす」の4部門135件の事業に支援実施して参りました。

その内容は市内小中学生が石見銀山を訪ね史跡や歴史を体験する銀山学習、モニターツアーの実施、銀山を取り巻く地質の探索や文化財の修復、草刈りや樹木・竹の伐採など多岐に渡り、多くの方々の活動を支えています。しかしながら自己資金を必要とする補助金制度は、経済基盤が弱く少子高齢化の進む田舎では運用に限界を感じているところです。

特に事業実施者の自立を求める3年での補助打ち切りは、未来に引き継ぐ『石見銀山』への継続的な活動で、かつ利益や見返りのない情報発信や保全活動・調査・研究ができないことが課題となりました。

そこで補助金制度ではなく、継続的な活動を行い未来に引き継ぐ『石見銀山』を育むため、税法上の諸課題を解決する認定NPOとして石見銀山協働会議をレベルアップすることにしました。認定NPOは事業や事務・資金の運営などにより高度な管理体制が必要であると同時に、構成メンバーの数的拡大がその必要要件になっています。

世界遺産登録10周年に向けて、“未来に引き継ぐ石見銀山”をさらに輝かせますので、地域の内外の方々に石見銀山ネットワークへの参加をお願いします。

NPO石見銀山協働会議の会報発刊のご挨拶とご支援のお願いといたします。

「第5回 世界遺産学習全国サミット INなら」に参加して

武田祐子 *

11月9日、悠久の歴史を誇る古都、奈良市で開催された全国サミットに、本校の6学年40名が参加させていただきましたことは、子どもたちにとっても、本校にとっても、平成26年度の心に深く残る想い出、記念すべき出来事のひとつとなりました。

まず、お話を伺った時に考えましたことは、この全国規模のサミットへの参加は、大田市の子どもたちが、世界遺産を持つ全国の子どもたちと親睦を深め、大田市の人気を発信できるとともに、他の地域の世界遺産学習を知ることもできるよい機会となるということでした。これはまさに「子ども親善大使」であると思ったわけです。さらに、将来を担う子どもたちが、今まで多くの人の思いや願い、営みによって数々の世界遺産が受け継がれてきたことを学び合い、だからこそ、これからも自分たちが力を合わせて引き継ぐのだという強い責任感や使命感、その素晴らしさを感じ取ってくれたらという期待も抱きました。

当日は、今年度実施した仁摩の韓島沖から銀山を見た神谷寿禎の気持ちを考える学習をはじめ、鞆ヶ浦港や鞆ヶ浦街道の現地体験、大国永久鉱跡地と銀山との関わり等々ふるさと仁摩を中心に据えた「仁摩小 銀山学習」を創作ミュージカル風に発表し、奈良市立飛鳥小学校と意見交換を行いました。

サミット後も、飛鳥小学校とは互いにプレゼントのやり取りがあり、コーディネーターを務めていただいた奈良文化財研究所の深澤芳樹先生にいたっては、後日、2回も本校にお越しください、特別授業をしてくださるなど、継続して親交を深めております。

サミット後の子どもたちの感想文には、発表への思い、当日の緊張と感動など素直な心の動き、そして、参加できしたことへの感謝があふれています。ここにその一部(抜粋)を紹介し、このような貴重な機会を与えていただきました大田市および大田市教育委員会、石見銀山協働会議、学習を支えていただいた多くの地域の方々に心より感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

【参加した児童の感想文】

○前日、東大寺の大仏様を見た時、明日の発表がうまくいくような気がしました。そして、サミットでは最高の発表ができたと思います。みんな、堂々と大きな声で発表していました。私たちの発表でたくさんの人々に感動してもらえたので、とてもうれしかったです。(春奈)

* 大田市立仁摩小学校

○思ったよりステージが狭く変わったところもあったけど、今まで練習してきたことをすべて出せたと思います。本番が今までで一番良くて百点以上だと思います。第二の修学旅行のようでした。(陽依里)

○初めて見た大仏は、とても大きくてびっくりしました。上半身と下半身が違う時代のものと聞いて、また、びっくりしました。戦争で壊すなんていけないと思いました。石見銀山も壊れるともう直せないから壊さないように守っていきたいです。(聰太)

○私は、サミットは、奈良の人に仁摩小や大田市のすごさを知ってもらうチャンスと思って、発表前はドキドキ感とワクワク感がありました。でも、発表し始めたら緊張感がなくなって発表が楽しくなりました。発表が終わると、観客の方々や先生方が感動して涙を流してくださいり、自分たちがすごい発表をしたんだと思いました。奈良での発表は、学習発表会よりいい発表だったと思いました。飛鳥小学校の人にも仁摩小学校と石見銀山のことを知ってもらえたし、自分たちも奈良の世界遺産を知ることができてよかったです。(夏萌)

○ぼくは奈良に行けて本当に良かったと思います。ぼくはみんなと一緒に奈良の人に石見銀山をしっかり伝えて興味を持つてもらうことや自分のセリフを間違わずに言うことができるかと心配していました。本番は、ミスをしてしまいましたが、見に来ている人たちがすごく優しそうな顔をしてくれて自分に少し自信がついてきました。終わった時、涙を流してくれていて、ぼくはその時、「伝えられたんだ」と思ってすごくうれしかったです。(大真)

○ぼくは、リハーサルで先生から注意されたので、本番では言葉に強弱をつけたり、その人の気持ちになって言わないと奈良に来た意味がないと思いました。飛鳥小の発表が終わったら緊張をしてきました。発表では、リハーサルの時に言われたことを思い出しながら、その人の気持ちにならなきゃと思ってやりました。自分のすべての力を出して思い残すことはないほどやりました。もう、「あー良かった。」という気持ちしかありませんでした。見ている人が感動して泣いてくれて、成功したんだなと改めて思いました。この石見銀山をもっといろいろな人に伝えたいです。(成途)

○奈良の大仏を生で見るのは初めてだったので、とても印象に残っています。一番の思い出は大仏の手に意味があると聞いたことです。なぜあんな姿なんだろうと思っていたので、意味が分かつてすっきりしました。私は初めの第一声をがんばろうと思っていたから、大きな声ではつきり言えたのでほっと安心しました。感動してもらって、私も感動しそうになりました。そのあとの交流会も、答えることも、質問もできました。最後の握手ができるとても良い交流ができたと思います。奈良で、小学校生活最後に最高の発表ができてよかったです。(光瑠)

○奈良に行けて小学校生活で一番楽しい思い出ができたかもしれません。お世話になった方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。(里穂菜)

○朝からその日はワクワクしてご飯をガッツリ食べてやる気まんました。リハーサルの歌の時も、表情を出そうとがんばりました。本番では、セリフと動作を大きく、言葉に感情をこめることを意識しながらステージに立っていました。みんなで創り上げた作品をやりとげた時、感動の涙を流してくださった方やすっと笑顔で見てくださった方がいてくださって、自分たちの作品が伝わったような気がしました。飛鳥小も世界遺産のことをそれぞれの学年が学習している活動が伝わってきました。質問タイムでも自分の意見が言えました。こんな交流会ができたのは、大田の方々、奈良の方々、そして先生方が協力してくださったおかげです。皆さんありがとうございました。(岳人)

○世界遺産に近い飛鳥小学校は、いろいろなことに取り組んでいることが分かったし、奈良についても詳しく知ることができました。私たちの発表では、観客が笑ってくれたり、うなずいてくれたりして緊張がほぐれました。セリフも気持ちをこめて言うことができたし、ダンスも歌もできいい発表だったと思います。涙を流してもらえるような素晴らしい発表が40人みんなでできたんだと思いました。飛鳥小学校や奈良の人たちに石見銀山や仁摩の良さをしっかり伝えることができて、発表は大成功でした。(詩乃)

ガイド養成講座

石見銀山ガイドの会 *

2014年7月6日、NHKテレビの「さきドリ」という番組で、「産業遺産の楽しみ方」をテーマに取り上げました。「富岡製紙場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録された直後のことでした。

この番組の結論は、「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「富岡製糸場と絹産業遺産群」という世界遺産を楽しもうと思ったら、「地元のガイドといっしょに歩くことが一番」ということでした。世界遺産は、登録されてそれで終わりではありません。その価値と意義を伝えていく責任が生じます。登録にかけた以上のエネルギーを伝えることに向けることが求められます。

一見しただけでは、その価値と意義が伝わりにくい要素を持った「石見銀山遺跡とその文化的景観」の場合、地元のガイドの果たす役割は極めて大きいものがあります。

石見銀山ガイド養成講座を石見銀山協働基金事業で開催できることは、とても有意義なことだと思います。

ガイド養成講座は、5か月間で20回の講座を開きます。

講座では、世界遺産登録の意義や石見銀山の歴史、石見銀山の鉱床と銀の生成などについて学ぶほか、世界遺産に関連する現地学習、更に、ガイド実習を行います。

閉講式では、学習したことの検定テストを行い修了者に終了証を渡します。

修了された方には、石見銀山ガイドの会に入会していただき、その後、先輩のガイドに同行する研修を10回程度行っていただきます。

その後、検定試験を受けていただき、それに合格して「ガイドデビュー」となります。

昨年は、初めて、中国の方が参加され、ガイドとしての活動を始め、中国を始め外国から来られたお客様へのガイドを中心に活動しています。

また、昨年は、上述したNHKの番組にも新人ガイドが出演し、ガイド1年目とは思えないとの評価もいただきました。

これも、ガイド養成講座の充実した内容が大きな力になっていると思います。

石見銀山ガイドの会は、平成12年に結成されましたが、会員の高年齢化も進みつつあり、ガイドの継続的養成が大きな課題になっています。

今後も、石見銀山協働基金事業として取り組んでいくことができればと願っています。

* 島根県大田市大森町イ824-3



写真1 養成講座座学の様子

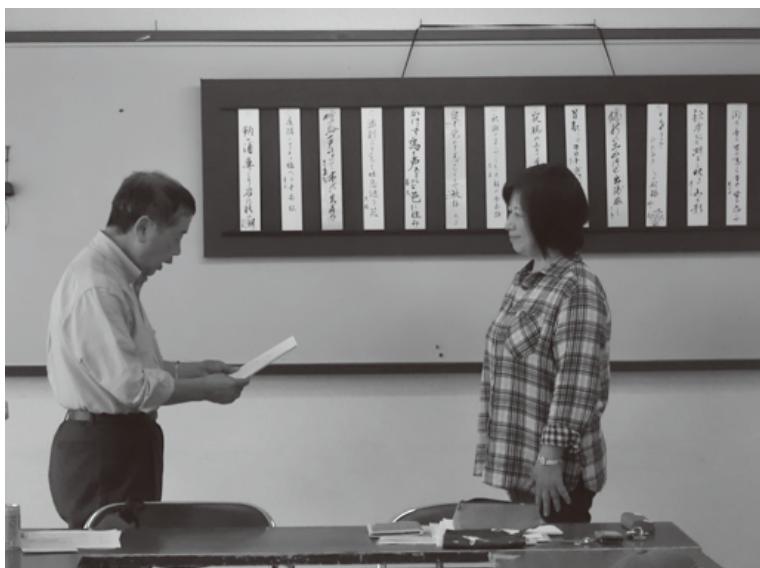


写真2 養成講座閉校式



写真3 養成講座検定試験

石見銀山とその周辺の光り物

松浦 良彦 *

世界遺産の石見銀山で、光り物については不謹慎な話と思われがちですが、神屋寿禎さんも安原伝兵衛さんも光り物を求めてきたのではないかでしょうか。そこで、今回はこの光り物について石見銀山地質研究会として取り上げてみました。

○光り物とは

皆さん光り物というと、まず何を思い出されますか？宝石類や金属鉱物（いわゆる金色に輝いているもの）でしょうか。または、とにかくきらきら光っているもの）でしょうか）この2種類ですね。地質研究会の会員の中の方も最初は山師的な動機を石見銀山に対して持っていたようですが、現実にはこれら光り物のほとんどは、先人たちが生活の糧として採りつくしたようで、全くと言っていいくらい石見銀山の中には光り物はありませんでした。現代を生きる私たちに比べて、当時の人たちは、もっと科学的で、感覚の鋭い人たちの集団が、山師ではなかったかと思いますので、比べても仕方ありません。

○光り物はどこにあるのか。その種類は

石見銀山柵の内や世界遺産資産内では、探すことはできませんでしたが、世界遺産の外では、こんなにもたくさんあるのかと、驚くほど光り物がありました。発見場所は内緒です。（逆に見ますと、石見銀山は様々な鉱山に囲まれているように見えます。その中心が石見銀山とも言えます。）

先ず、一番ポピュラーな光り物が玉髓とメノウだと思います。小石のたくさんある海岸には、玉髓の色が白く透明なもの、白以外でも黄色や赤色をして透き通ったものもあり、比較的に容易に見つけることができます。残念ながら出雲地方のように緑色したものはありませんでした。玉髓とメノウの違いは、結晶の中に縞模様があるのをメノウと言います。次に、玉髓などの仲間に見事な六角柱をした水晶があります。色は、藤色や紫色までありました。さらに、橄欖石（かんらんせき）でしょうか、緑色の直方体で透明な結晶をしたものが溶岩の中に見ることができます。以上は火山関連でできたのですが、それ以外にもなんと、木の樹液が化石化した琥珀（こはく）も存在するところがあるのです。もちろん、数 mmのかわいらしいものです。そして何といってもこの地域の特徴は石膏があるということです。溶岩でできた岩盤が露出している海岸を歩くと、時々ですが、細く入り込んだ鉱物脈に、長さ10数 cmの透明な結晶が挟まっていることがあります。それが石膏なのです。

* 石見銀山地質研究会

金属鉱物については、石見銀山以外の近くの鉱山や露頭から、いろいろなものを見つけました。

○金色の光り物

子どものころ、道端に落ちている石を拾ってみるときらきらと光っているのがありました。大騒ぎをして、親に金を拾ったと、よく報告をしたものです。しかし、現実はそんなものではありませんでした。よく調べてみると金色に輝いていますが、鉄や銅の仲間のような金属鉱物でした。
黄鐵鉱、黄銅鉱、クジャク石、藍銅鉱、方鉛鉱、閃亜鉛鉱、灰鉄輝石、ザクロ石、希水鉛鉱など、金属鉱物のデパートのように、石見銀山周辺では見ることができます。採取場所は、個人のものであったり、自治体が管理しているところだったりで、公表はできませんが、たくさんの鉱物があることを改めて感じました。

○石見銀山の地域性

私たちの石見銀山の地域性は何かと言いますと、研修会や個人で周辺の鉱山探索をしてみた結果として以下のようになるのではないかと予想されます。

1.日本海に面したところの黒鉱鉱床は、日本海の形成期や拡大期にできたと言われています。

日本海が形成や拡大するとき(およそ2,500万年前から1,200万年前くらい新第三紀中新世と言われている地層です。)には、活発な火山活動が行われ、しかも日本海の深海での活動が黒鉱を生み出したと言われています。黒鉱は様々な金属鉱物の混在したもので、形成過程で、石膏もできます。ですから、黒鉱鉱床には石膏がともなうようです。

2.石見銀山の中国山地側には、もっと古い地層(今からおよそ5,000万年から1億年前くらいまで遡るかも知れません。古第三紀や白亜紀と呼ばれている地層)が横たわっています。そこで生まれたのがたくさんの鉱山です。

3.そして、石見銀山です。今からおよそ170万年から100万年前の大江高山火山群の火山活動によってできた鉱山です。

以上ですが、この三項目の関連性は、解説されていませんが、何らかの関係があるようにも思われます。解説されると鉱物や熱水、溶岩の流れ、ひいては日本列島の動きなども解説されるのではないかと期待されます。

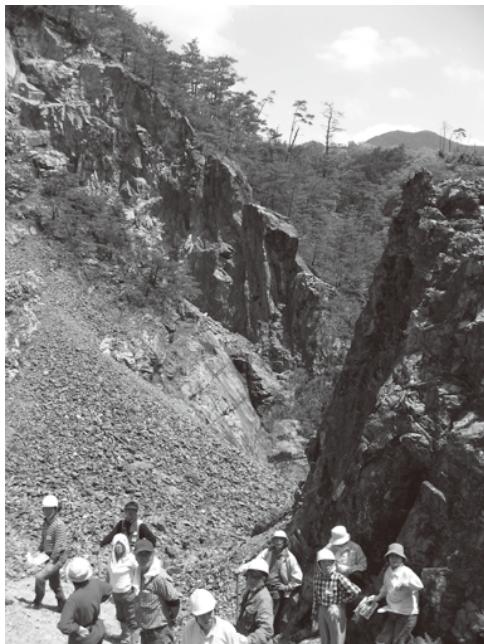


写真 1

巨大な坑口を開けた露頭掘りの跡です。人と比べると、その大きさが分かります。この鉱山の開坑は 15 世紀まで遡るようです。しかし、坑口をさらに 120m 入ると水平坑道に出るようです。この周辺からは、藍銅鉱、方鉛鉱、閃亜鉛鉱やザクロ石がありました。



写真 2

坑道の中の様子で、ヘルメット、ライト、を持って入ります。坑口から 4,500m 先に切羽があり、ここからは灰鉄輝石というこのタイプ独特の鉱山の鉱石を採取しました。



写真 3

ミニ溶岩の跡です。金属鉱物や鉱物が採取できるおもとのところです。このところは溶岩の通り道で、光り物が作られる原因が火山です。周辺には幅 2、3cm の玉髄の脈が走っているのを見ることができます。玉髄の脈の上下には、黄銅鉱や黄鉄鉱の結晶がきれいに並んでいます。

平成25年度に実施された石見銀山基金を活用した文化財の修復

大田市石見銀山課 *

「銀山百カ寺」という銀山の繁栄をうかがわせる言葉がありますが、石見銀山遺跡には寺院のみならず多くの歴史的な建造物が遺っています。これらは、それぞれ石見銀山の歴史を物語るものであり、遺跡の景観にとっても大変貴重な文化財です。

歴史的建造物の保全を図るため、石見銀山遺跡地内の文化財建造物の保存修理の自己負担分に対して、石見銀山基金の助成金が受けられる仕組みがあります。この助成を利用して、「団体で所有する」建造物について、少ない檀家や氏子で維持されてきた寺院や神社の修理が実現しました。

大田市では、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている大森銀山地区、温泉津地区内の建造物や、指定文化財の保存修理事業を毎年数件ずつ進めておりますが、そのうち石見銀山基金の助成を受けて平成25度に4件、平成26年度には2件の寺社建造物の修理が実施されました。

文化財の修理費用は補助金を受けられるといえども、一般建築と比べると、材料も限定され伝統的な修理技術の手間もかかり、規模も大きく、事業費はかさみます。また、遺跡地内には多くの寺社があることから地元の住民のみでこれらの建物を維持管理していくのは決して容易ではありません。近年進みつつある過疎化や高齢化も事業費の捻出をますます困難にしています。このような様々な要因から、寄付を募っている間に建物の損傷が進行してしまうこともあります、石見銀山基金が自己負担費用の一部を補助することはとても有効です。

それでは、修理が実現した事例をいくつか紹介します。



写真1 本殿修理前の城上神社

事例1：城上神社（本殿・隨神社・瑞垣）

建築年代は大森大火後の文化12年（1815）。経年による劣化のため屋根に雨漏りを生じて垂木や野地などに腐朽がみられるほか、木階や縁板、高欄、亀腹など足元廻りの傷みや石段の不陸、ムササビによる木部の被害もあることから、屋根や足元廻りの木部の修繕と屋根の葺替え、石段や亀腹の修繕など、保存修理工事を実施した。

* 大田市大田町口1111



写真2 井戸神社本殿修理後

事例2：井戸神社本殿

庶民の基飢饉を救った業績から「芋代官」の呼び名で親しまれる代官、井戸平左衛門正朋を祀る。現在の社殿は大正5年（1916）に井戸神社興復会に集められた募金によって再建された。屋根は妻側の軒付けの檜皮が露出していた部分を銅板で被覆し、腐朽していた千木・勝男木を取替え整備しました。縁廻りでは縁板、高欄、縁束などの木部補修を行った。また基礎（亀腹）に使われた福光石（凝灰岩）の剥離部分をモルタルで補修した。

平成26年度までに石見銀山基金の助成を受け実施した建造物は、大森銀山地区では城上神社（本殿・隨神社・瑞垣）、井戸神社（本殿）、西本寺（山門）、羅漢寺（本堂）です。いずれも屋根や主要な構造体が損傷を受けていたため緊急性が高い事業でしたが、修理を行うことが出来ました。温泉津地区では、西楽寺（本堂・鐘楼）の部分修理が行われました。いずれも以前に屋根の修繕が済んでいるため部分修理でしたが、境内に多くの建物が残る寺院としては、基金を効果的に活用できた事例といえるでしょう。

また、温泉津町沖泊に建つ恵比須神社（本殿・拝殿）は、石見銀山遺跡地内建造物の保存修理事業として3ヵ年計画で修理を進めています。現在本殿と拝殿を全て解体し、柱や梁、屋根瓦などひとつひとつを丁寧に取り外して補修しています。建物の解体を進める中で、普段見ることのできない当時の職人の技術や修理の経過が明らかとなります。また、神社に関わる総代や氏子のみなさんの関心も高まり地域の活性化も期待されます。

平成27年度からは、基金の補助金要綱も一部改正され、文化財修理に対しての補助率がさらに向上します。建造物の修理は時間もかかりますが、ひとつひとつ丁寧に行っていくことが大切です。今後も世界遺産・石見銀山遺跡を守り、未来に継承していくよう効果的に石見銀山基金が活用されるよう寄付の継続や地域の協力が必要となります。



写真3 修復後の西本寺山門

事例3：西本寺山門

昭和36年に龍昌寺から移築されたもので、山吹城の遺構とも伝えられる。17世紀初頭の特徴を備える模範作と位置付けられ、平成16年に市の有形文化財に指定されている。

修理工事では、まず立地環境の改善を行った上で、傷んだ足元廻りの部材の修繕、腐朽した部材の取替えや補強を行うなど軸部の傾きの原因を解消した。また、屋根瓦の葺替え、装飾・金物の復原を行うなど、保存修理工事を実施した。



写真4 西楽寺本堂の外観

事例4：西楽寺本堂ほか

温泉津大の本堂で、建築年代は天保12年（1841）頃と推定される。平成3年に屋根替えなどの改修を行いましたが、近年、床下構造材の不陸、床板がたわむなどの不具合が生じていた。修理工事では、床下の構造補強と背面の腰壁の補修を行った。須弥壇・内陣下は大引、根太の腐朽箇所の補修と構造補強を行い、外陣下は以前の改造で切断されていた大引を繋ぎ直した。



写真5 恵比寿神社の外観

事例5：恵比須神社本殿拝殿

事代主命を祀り、沖泊の人々や、諸国より入港する船人から篤く信仰されてきた。社殿は港近くの小高い傾斜地に建ち、本殿は港の方角へ正面を向け、拝殿の港側の側面には豪快な彫刻が刻まれている。建築年は16～17世紀中頃と推定され、石見銀山遺跡地内で最古の神社建築である。建物を解体しながら調査することで、様々な技術的な発見があった。事業は平成27年度に完了する予定である。



写真6 修理工事中の恵比寿神社

「石見銀山三日籠り」 参加者たち

法正久美子 *

昨年9月20日、大田市民会館で「世界遺産フォーラム in 石見銀山～どうする世界遺産～」が開催された。フォーラムには世界遺産に登録されて間もない富士山と富岡製糸場に加えて、現在世界遺産登録を目指して活動している長崎県からパネラーを招き、それぞれの世界遺産地域が抱えている課題や地域の将来像を語り合った。当日のディスカッションは、満員の来場者を巻き込んだ熱気あふれるものであった。

このパネラーの一人である長崎県世界遺産登録推進課の宮武直人氏は、「石見銀山三日籠り」の前身「全国大学生石見銀山講座」からの参加者である。

石見銀山講座の目的のひとつに、「研究者の育成」があった。宮武氏も考古学を研究する大学院生であり、発掘調査が行われていた石見銀山遺跡に関心があつて参加したそうだ。当時の講座は4泊5日のプログラムで、夜学やフィールドワークを中心にハードなスケジュールで行われていた。そのため参加者の中には慣れない集団生活と残暑の厳しさも手伝って体調を崩す者もいたが、多くの学生は講師が話す最新の研究成果を熱心に聴いていた。彼もそのうちの一人である。

その後、彼はこれまで勉強してきたことを活かし、長崎県で文化財の専門職員として採用され、2年前から現在の職場で世界遺産に関連する仕事をしている。彼は社会人になってからも毎年講座の運営を手伝ってくれていたが、まさか講座で勉強したこと仕事をするとは思っていなかつたらしい。

石見銀山講座は、2002年から大田市ほか二町行政組合の主催で始められ、その後当NPO法人が運営を引き継いでいる。講座の卒業生は宮武氏をはじめこれまで延べ300名を数える。その中には、卒業論文のテーマに石見銀山を選んだ者も多く、地元で学芸員として活躍する者もいる。また、建築、観光、文化行政、教員などさまざまな分野で活躍している。当初は研究者の育成を目的に始めた講座だが、これをきっかけに石見銀山のことを知っている人が各方面に増えたこと、また応援してくれる人が全国に生まれたことはこの講座の成果のひとつでないだろうか。

一部の卒業生たちは、今でも連絡を取り合って交流を続けている。

いつか、全国でそれぞれの分野でキャリアを積んでいる“石見銀山三日籠り卒業生”を講師として招いて、石見銀山の未来を語り合いたいと思っている。

* NPO法人しまね歴史文化ネットワークもくもく



写真1 フィールドワーク「三瓶山」



写真2 石見銀山遺跡探訪



写真3 座学



写真4 世界遺産フォーラム in 石見銀山（宮武氏：右端）

三重津 世界遺産の繋がり

『明治日本の産業遺産革命』－三重津海軍所跡の世界遺産登録を願って－

波多野 諭 *

今年、我が国が申請する世界遺産は、今までにはない広範囲な産業歴史遺産です。北は岩手県の釜石から南は鹿児島県の鹿児島まで、明治維新前後に近代化を目指し、驚異的な早さで産業立国を果たした日本、その先駆けとなった9県11市にまたがる30の明治の産業遺構を一括して登録するものです。『明治日本の産業遺産革命』として、建築、技術、記念碑的芸術、都市景観等の発展・交流に関し重要な価値があるとされています。

先般、その産業遺構の一つ、日本が誇る造船技術の原点となった鍋島藩の三重津海軍所跡を訪ね、佐賀市で開かれた「三重津海軍所跡を世界遺産に」というシンポジウムに参加しました。登録前後の行政や民間・地域の取り組みについて、富岡の関係者と共に当時の状況を尋ねられ、主に石見銀山協働会議の立ち上げやその後の活動、そして石見銀山基金の活動と登録当時の多くの来訪者への対応をお話しました。

この三重津は有明海に注ぐ筑後川の下流に位置し、佐賀市と合併した諸富町・川副町の一部にあり大森町と同じく約500人が住まわれ関係者ですが、遺産として注目されたのはきわめて新しく、みなさんに少なからず戸惑いが感じられました。

というのは、鍋島藩海軍所が1858年に設置された場所が小規模な河川公園に整備されて、3年前に記録に残る日本最初の造船ドッグを一部を発掘・調査し、その技術や使用した材料が類例のない史跡であることから構成遺産に含まれました。一方で、その資料が少なく近代造船や船舶機材の価値がよく解らない、また遺構が地中に埋もれているため来訪者に価値を伝えられない、地元でもなぜ「世界遺産なの？」と半信半疑のようで、石見銀山も登録当時は同じような悩みを抱えていたと、妙な親近感を覚えた次第です。

親近感と同時に驚いたことが二つあります。まず一つめは、公園の中にある小さな港で舟がヘドロの川底に投げ捨てられたように傾き着底していたのです。

三重津海軍所の予備知識に、有明海の6mの干満差を利用して造船ドッグが作られたとはありましたが、目の前の筑後川は船が行き交い、つながる港では舟が地面にある光景は、干満差を知らぬ私にとっては“何コレ、珍百景”のテレビを見ているようでした。

ところが地元では6mの干満差は日常で当たり前ですから、造船ドッグが当時、三重津に作られた意識が住む人に伝わらないという「日常の中の非日常な事」が生じていると思い、石見銀山でも来訪者のご意見や感想をもっと大切にしなければと教えられました。

もう一つは当時の鍋島藩の驚異的な技術開発、英國最新鋭のアームストロング砲の製造に大森

* NPO法人石見銀山協働会議

代官所が関わっていたことです。幕府の要請で大砲の制作に取り組み、必要な資材は幕府が用意した中、天領でかつ鉄の一大生産地を統括した大森代官所がタタラで作られた鉄を集積・搬送し、鍋島藩からその折衝のため江藤新平の父君らが何度も石見に来訪しました。

『明治日本の産業遺産革命』には反射炉の遺構がありますが、先立つものとして石見の鉄が使われた事でさらに親しみを感じ、今年是非とも三重津海軍所跡が世界遺産に登録されることを期待し、遺産つながりを深め石見銀山の近代の様子がまた一つ解明されることを願う次第です。

事業報告

1. 平成 26 年度事業

【実施事業一覧】

- ◎石見銀山基金事業
- ◎クリーン銀山
- ◎石見銀山基金の募金活動
- ◎石見銀山協働フォーラム

(1) 石見銀山基金事業

石見銀山基金事業とは、石見銀山遺跡を「守り、活かし、究め、伝える」市民活動や石見銀山遺跡におけるユネスコの精神に基づく平和と人権を尊重する啓発活動を選定し、石見銀山基金を活用して取り組む事業で、当法人では事業の募集、選定、報告に関する下記の 4 項目を行った。

・石見銀山基金事業の募集

平成 26 年 3 月 1 日～4 月 30 日（平成 26 年度一般事業 2 次募集、一般事業初挑戦枠）

平成 26 年 11 月 5 日～12 月 29 日（平成 27 年度一般事業）

* 保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業は隨時募集。

・平成 26 年度石見銀山基金事業公開審査会（一般事業 2 次 / 一般事業初挑戦枠）

日時：平成 26 年 6 月 28 日（土）13:00～

会場：石見銀山世界遺産センター オリエンテーション室

概要：一般事業 2 次に 3 団体、一般事業初挑戦枠に 2 団体の応募があり、審査を行った。

・平成 27 年度石見銀山基金事業公開審査会（一般事業）

日時：平成 27 年 1 月 24 日（土）13:00～

会場：石見銀山世界遺産センター オリエンテーション室

概要：1 団体の応募があり、審査を行った。

・平成 25 年度石見銀山基金事業報告会

日時：平成 26 年 6 月 8 日（日）10:00～

会場：大田市民会館 2 階 第一会議室

概要：平成 25 年度分で採択された、認定事業 11 団体（大田市内の小・中学校は代表で 1 校）、審査事業 10 団体が事業報告を行った。

※平成 25 年度までの名称について

審査事業（一般事業）：石見銀山を守る活動・活かす活動・究める活動・伝える活動

認定事業：石見銀山を守る活動（保全事業・文化財等修復事業）・伝える活動（石見銀山学習事業）



平成 26 年度石見銀山基金事業公開審査会



平成 25 年度石見銀山基金事業報告会

(2) クリーン銀山

クリーン銀山は、市民や企業ボランティアの協力を得て実施する石見銀山地内の清掃等の活動で、当法人が主催して実施した。

また、市民や企業ボランティアが自主的に実施する保全活動のコーディネートを当法人が行い、活動をサポートしている。

・第 15 回クリーン銀山

日時：平成 26 年 10 月 25 日（土） 8:30 ~ 11:30

場所：大田市大森町宮の前付近

内容：市道法面に樹木が茂り、大型車両の進入に支障があることから、参加者 89 名と NTT 西日本、大田市森林組合等の協力を得て伐採、清掃の作業を行った。



クリーン銀山実施前の状況



作業風景

(3) 石見銀山基金の募金活動

石見銀山基金は、石見銀山遺跡を適正に保全活用し、未来へ確実に継承していくために民間と行政が協働し、幅広い活動を持続的に実施するための基金で、島根県内外の個人・法人・団体から寄付の寄付により集められ、大田市の基金として積み立てられている。当法人では、この基金の募金活動と、基金を活用して実施する事業の募集等を行っている。

平成 26 年度の寄付金額 10,383,594 円

石見銀山基金寄付総額 248,073,076 円

* いずれも平成 27 年 3 月 1 日時点。行政拠出金を含まない額。



石見銀山基金募集チラシ。表面（左）と裏面（右）



山陰合同銀行のごうぎん Duo カードクラブ Web サイト
チャリティポイント掲載

(4) 石見銀山協働フォーラム

石見銀山遺跡に関する活動に関わる市民の輪が広がり、石見銀山基金を活用した事業が活発になることを目指して実施した。あわせて、石見銀山行動計画の進行管理及び検証を行う機会として位置づけている。

・石見銀山協働フォーラム

日時：平成27年3月7日（土） 13:30～16:00

場所：大田市民会館 2階 第一議室

内容：基調講演「保存と活用—菅谷たたら山内他を事例に」

（講師）株式会社文化財保存計画協会主任研究員 木本泰二郎氏

パネルディスカッション「世界遺産の町に住む」

（パネリスト）後藤開氏・中田敏彦氏・松場忠氏・小林泰三氏・窪田真菜氏



参加募集チラシ

(5) 総会および理事会

- ・4月17日(木) 定時理事会
- ・5月17日(土) 定時理事会・第4回定時総会
- ・5月23日(金) 臨時理事会
- ・6月19日(木) 定時理事会
- ・7月17日(木) 定時理事会
- ・8月21日(木) 定時理事会
- ・9月18日(木) 定時理事会
- ・10月15日(水) 定時理事会
- ・11月20日(木) 定時理事会
- ・12月12日(金) 定時理事会
- ・1月15日(木) 定時理事会
- ・2月19日(木) 定時理事会
- ・3月18日(水) 定時理事会

(6) 役員・事務局

理事長　波多野　諭
副理事長　中村　唯史
理事　石橋　哲一郎
理事　尾川　隆康
理事　影山　邦人
理事　中村　仁美
理事　山崎　紀明
理事　和上　豊子
監事　龍　善暢
監事　楫　伸

事務局長　勝部　行雄
事務局員　富田　勇治

平成26年度収支

(単位、円)

全事業所	当初予算	27年3月末見込	差額	備考
【経常収益】				
【受取会費】				
正会員受取会費	63,000	57,000	△ 6,000	
賛助会員受取会費	70,000	50,000	△ 20,000	
【受取寄付金】			0	
受取寄付金	10,000	10,000	0	
【事業収益】			0	
管理費) 受取負担金	3,218,964	3,201,143	△ 17,821	
事業) 受取負担金	3,894,686	3,912,507	17,821	
【その他収益】			0	
受取利息	313	279	△ 34	
【経常収益】 合計	7,256,963	7,230,929	△ 26,034	
【経常費用】			0	
【事業費】			0	
(人件費)			0	
給料手当(事業)	2,455,200	2,455,200	0	
通勤手当(事業)	165,000	165,000	0	
法定福利費(事業)	373,996	257,634	△ 116,362	
人件費計	2,994,196	2,877,834	△ 116,362	
(その他経費)			0	
事業 支出	205,000	121,824	△ 83,176	
諸謝金 (事業)	170,000	141,120	△ 28,880	
旅費交通費(事業)	212,940	339,686	126,746	市内活動の燃料増
通信費(事業)	121,000	93,086	△ 27,914	
印刷製本 (事業)	70,000	300,000	230,000	会報、チラシなどの作成
事務消耗品費(事業)	88,750	126,354	37,604	
地代 家賃(事業)	0	115,248	115,248	
諸会費	0	12,000	12,000	
雜 費(事業)	32,800	126,178	93,378	
その他経費計	900,490	1,375,496	475,006	
事業費 計	3,894,686	4,253,330	358,644	
【管理費】			0	
(人件費)			0	
給料 手当	2,008,800	2,008,800	0	
通 勤 手当	135,000	135,000	0	
法定福利費	305,997	210,788	△ 95,209	
人件費計	2,449,797	2,354,588	△ 95,209	
(その他経費)			0	
旅費交通費	30,120	23,644	△ 6,476	
通信費	99,000	77,636	△ 21,364	
事務消耗品費	72,615	145,106	72,491	
地代 家賃	209,542	94,294	△ 115,248	
諸会費	0	3,000	3,000	
リース 料	157,890	86,760	△ 71,130	
雜費	180,000	79,270	△ 100,730	
支払手数料	20,000	1,914	△ 18,086	
予備費	100,000	0	△ 100,000	
その他経費計	869,167	511,624	△ 357,543	
管理費 計	3,318,964	2,866,212	△ 452,752	
経常費用 計	7,213,650	7,119,542	△ 94,108	
当期経常増減額	43,313	111,387	68,074	

当期正味財産増減額	43,313	111,387
前期繰越正味財産額	1,228,539	1,228,539
次期繰越正味財産額	1,271,852	1,339,926

2. 平成 25 年度までの事業

(1) 平成 22 年度

◎石見銀山基金事業

- ・石見銀山基金事業の募集

募集期間 平成 22 年 10 月 1 日～12 月 20 日

(平成 23 年度一般事業、保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業)

※平成 25 年度までの名称について

審査事業（一般事業）：石見銀山を守る活動・活かす活動・究める活動・伝える活動

認定事業：石見銀山を守る活動（保全事業・文化財等修復事業）・伝える活動（石見銀山学習事業）

- ・平成 23 年度石見銀山基金事業公開審査会（一般事業 / 保全事業 / 石見銀山学習事業）

日時：平成 23 年 1 月 23 日（日）13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 5 団体、保全事業に 4 団体、石見銀山学習事業に 1 団体の応募があり、審査を行った。



公開審査会の様子



公開審査会の様子

◎石見銀山協働会議第 9 回全体会

日時：平成 22 年 9 月 26 日（日）14:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：石見銀山基金事業募集要項についての説明や石見銀山基金の活用について、グループセッションを行った。

◎総会および理事会

- ・総会

平成 22 年 4 月 11 日（日） 設立総会

- ・理事会

平成 22 年 10 月 16 日（土）、11 月 18 日（木）、12 月 7 日（火）、12 月 16 日（木）

平成 23 年 1 月 13 日（木）、1 月 20 日（木）、2 月 17 日（木）、2 月 24 日（木）、3 月 17 日（木）

(2) 平成 23 年度

◎石見銀山基金事業

- ・石見銀山基金事業の募集

平成 23 年 4 月 1 日～5 月 31 日

(平成 23 年度一般事業、保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業 2 次募集分)

平成 23 年 10 月 1 日～11 月 30 日

(平成 24 年度一般事業、保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業募集分)

- ・平成 23 年度石見銀山基金事業公開審査会（平成 23 年度一般事業 / 保全事業 2 次募集分）

日時：平成 23 年 7 月 10 日（日）13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 2 団体、保全事業に 1 団体の応募があり、審査を行った。

- ・平成 24 年度石見銀山基金事業公開審査会(平成 24 年度一般事業/保全事業/石見銀山学習事業)

日時：平成 24 年 1 月 22 日（日）12:30～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 5 団体、保全事業に 1 团体、石見銀山学習事業に 2 团体の応募があり、審査を行った。



平成 23 年度石見銀山基金事業公開審査会



平成 24 年度石見銀山基金事業公開審査会

◎石見銀山協働フォーラム

- ・石見銀山協働フォーラム 2011 「どう活かす！？石見銀山基金 3 億円」

日時：平成 23 年 11 月 3 日（木）13:00～

会場：大田商工会議所 3 階 大ホール

参加者数：50 名

内容：第 1 部 石見銀山基金を取り巻く今

第 2 部 石見銀山基金事業中間報告

第 3 部 「どう活かす！？石見銀山基金 3 億円」

第 4 部 講評 東京大学副学長 西村幸夫氏

◎独立行政法人国際協力機構（JICA）技術協力プロジェクト受け入れ

日時：平成 24 年 1 月 23 日（月）

会場：大田市役所仁摩支所 2 階 会議室

内容：「シリア国ダマスカス首都圏都市計画・管理能力向上プロジェクト」に参加のシリア人研修生を受け入れ、石見銀山協働会議の事例を紹介した。

◎労働政策研究・研修機構への協力

日時：平成 23 年 11 月～12 月

内容：「労働政策研究報告書 No.142 2012 高齢者の社会貢献活動に関する研究－定量的分析と定性的分析から－」の刊行にあたり、協力を行った。



石見銀山協働フォーラム 2011 パネルディスカッション



JICA 技術協力プロジェクト

◎総会および理事会

・総会

平成 23 年 5 月 15 日（日） 第 1 回定期総会

・理事会

平成 23 年 4 月 14 日（木）、5 月 13 日（金）、6 月 16 日（木）、6 月 29 日（水）、7 月 21 日（木）
8 月 11 日（木）、8 月 26 日（金）、9 月 15 日（木）、10 月 13 日（木）、11 月 17 日（木）
12 月 15 日（木）、12 月 20 日（木）、
平成 24 年 1 月 13 日（金）、2 月 16 日（木）、3 月 15 日（木）

(3) 平成 24 年度

◎石見銀山基金事業

- ・石見銀山基金事業の募集

平成 24 年 4 月 1 日～5 月 31 日

(平成 24 年度一般事業、保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業 2 次募集分)

平成 24 年 10 月 1 日～12 月 20 日

(平成 25 年度一般事業、保全事業、石見銀山学習事業、文化財等修復事業募集分)

* 平成 24 年度事業より、認定事業（保全事業・石見銀山学習事業・文化財等修復事業）は、随時募集となる

- ・平成 24 年度石見銀山基金事業公開審査会（平成 24 年度一般事業 / 保全事業 2 次募集分）

日時：平成 24 年 7 月 8 日（日） 13:30～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 5 団体、保全事業に 2 团体の応募があり、審査を行った。

- ・平成 25 年度石見銀山基金事業公開審査会（平成 25 年度一般事業募集分）

日時：平成 25 年 2 月 17 日（日） 13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 8 団体の応募があり、審査を行った。

- ・平成 23 年度石見銀山基金事業報告会

日時：平成 24 年 5 月 19 日（土） 13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：平成 23 年度分で採択された、認定事業 6 団体（大田市内の小・中学校は代表で 1 校）、審査事業 7 団体が事業報告を行った。



平成 24 年度石見銀山基金事業公開審査会



平成 23 年度石見銀山基金事業報告会

◎石見銀山基金の歩み作成

平成 24 年 7 月に「石見銀山遺跡とその文化的景観」が世界遺産登録 5 周年を迎えることを記念し、石見銀山基金や石見銀山基金の活用を振り返る「石見銀山基金の歩み」を刊行した。

◎石見銀山協働フォーラム

- ・石見銀山協働フォーラム 2013 「石見銀山基金を使ってみよう！」

日時：平成 25 年 3 月 9 日（土）13:00～

会場：あすてらす 3 階 研修室 1・2

参加者数：30 名

内容：第 1 部 石見銀山基金を使ってみました！

第 2 部 「石見銀山基金を使ってみよう！」

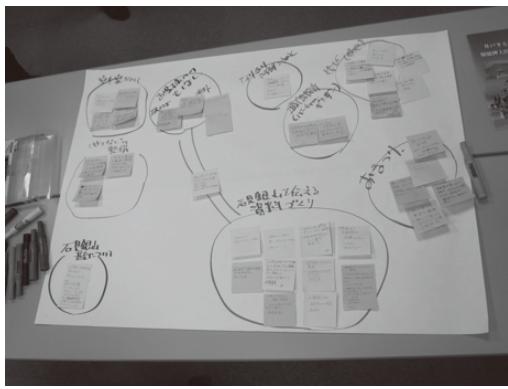
◎第 4 回全国まち歩き観光サミット in 石見銀山への協力

日程：平成 24 年 12 月 8 日、9 日

内容：石見銀山という世界遺産のさらなる魅力的な描き方、あるいは見落としがちな地域の素材を資源として活かすための方策などをまちあるきの観点から見つめ直すことを主眼として開催した。



平成 23 年度石見銀山協働フォーラム



協働フォーラムのワークショップ

The registration form is titled "第4回全国まちあるき観光サミットin石見銀山へまちを知ればまちはもっと面白くなる [参加申込書]" (Application Form for the 4th National Machi-wakiki Tourism Summit in Iwami Ginzan). It includes fields for name, address, telephone number (FAX: 0852-32-3535), and participation dates (12月8日 (土) 第4回全国まちあるき観光サミットin石見銀山 (開催) 参加する しない; 12月9日 (日) 第4回全国まちあるき観光サミットin石見銀山 (開催) 参加する しない; 12月8日 (土) ワークショップ 参加する しない). The right side of the image shows a photograph of a traditional Japanese stone bridge over water.

第 4 回全国まち歩き観光サミット in 石見銀山の参加者募集チラシ

◎総会および理事会

- ・総会

平成 24 年 5 月 19 日（土） 第 2 回定時総会

- ・理事会

平成 24 年 4 月 19 日（木）、5 月 17 日（金）、6 月 14 日（木）、7 月 26 日（木）、8 月 30 日（木）

9 月 14 日（金）、9 月 27 日（木）、10 月 18 日（木）、11 月 10 日（土）、12 月 14 日（金）

平成 25 年 1 月 15 日（火）、1 月 23 日（水）、2 月 14 日（木）、3 月 22 日（金）

(4) 平成 25 年度

◎石見銀山基金事業

・石見銀山基金事業の募集

平成 25 年 4 月 1 日～5 月 31 日 (平成 25 年度一般事業 2 次募集分)

平成 25 年 10 月 25 日～12 月 10 日 (平成 26 年度一般事業募集分)

*保全事業・石見銀山学習事業・文化財等修復事業は、随時募集

・平成 25 年度石見銀山基金事業公開審査会 (平成 25 年度一般事業 2 次募集分)

日時：平成 25 年 6 月 29 日 (土) 11:30～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 2 団体の応募があり、審査を行った。

・平成 26 年度石見銀山基金事業公開審査会 (平成 26 年度一般事業募集分)

日時：平成 26 年 1 月 25 日 (土) 13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：一般事業に 5 団体の応募があり、審査を行った。

・平成 24 年度石見銀山基金事業報告会

日時：平成 25 年 6 月 1 日 (土) 13:00～

会場：仁万まちづくりセンター 2 階 集会室

概要：平成 24 年度分で採択された、認定事業 5 団体（大田市内の小・中学校は代表で 1 校）、審査事業 9 団体が事業報告を行った。



平成 25 年度石見銀山基金事業公開審査会



平成 26 年度石見銀山基金事業公開審査会

◎クリーン銀山

・第 14 回クリーン銀山

日時：平成 25 年 10 月 26 日 (土) 8:30～11:30

場所：井戸神社、城上神社周辺

内容：伝統的建造物群保存地区内的一部である建造物を保存・継承していくために、参加者 63 名の協力を得て、雑木の搬出、清掃の作業を行った。

・雪害によるクリーン銀山

日時：平成 26 年 2 月 23 日（日） 9:00 ~ 11:30

場所：豊栄神社

内容：雪害により、石見銀山遺跡地内において、広範囲にわたり倒木竹等が発生し、近年に例を見ない大きな被害を受けたことから、参加者 44 名と地元のボランティア等の協力を得て、倒木竹の搬出の作業を行った。



第 14 回クリーン銀山参加者



雪害により金融的に実施したクリーン銀山



企業ボランティアによる清掃活動

◎石見銀山基金の募金活動

- ・石見銀山基金の募金のチラシ作成

- ・寄付の受付

- ・募金の呼びかけ

「ここまでわかった石見銀山」 平成 25 年 8 月 31 日（土） 10:00 ~

会場：大田市民会館 中ホール、パネル展示室

「広島大田会」 平成 26 年 1 月 18 日（土） 9:00 ~

会場：広島国際ホテル

◎石見銀山協働フォーラム

- ・石見銀山協働フォーラム 2014 「石見銀山行動計画の今までの成果と今後について」

日時：平成 26 年 2 月 15 日（土）13:00～

会場：あすてらす 3 階 研修室 1・2

参加者数：42 名

内容：基調講演「大内氏の銀山支配に関する心光院の梵鐘」

（講 師）九州国立博物館主任研究員 鳥越俊行氏

グループ討議「石見銀山行動計画の今までの成果と今後について」

◎総会および理事会

- ・総会

平成 25 年 5 月 25 日（土） 第 3 回定期総会

- ・理事会

平成 25 年 4 月 16 日（火）、5 月 25 日（土）、6 月 6 日（木）、6 月 12 日（水）、6 月 29 日（土）
7 月 7 日（日）、7 月 22 日（月）、8 月 23 日（金）、9 月 27 日（金）、10 月 17 日（木）、11 月 6 日（水）
11 月 21 日（木）、12 月 19 日（木）

平成 26 年 1 月 16 日（木）、2 月 12 日（水）、3 月 19 日（水）

石見銀山基金事業

1. 平成 23 年度石見銀山基金事業

(単位 : 円)

申請団体名	事業名	事業概要	事業費	補助金額
石見銀山を守る活動 (認定事業) 石見銀山遺跡地内で実施する草刈り、竹刈り及びゴミ拾い活動 補助率 : 10/10 限度額 : 10 万円				
馬路地区社会福祉協議会	クリーン銀山・鞆ヶ浦	銀や銀鉱石の積出港である鞆ヶ浦と石見銀山街道 鞆ヶ浦道を対象とした草刈りやゴミ拾い	111,490	100,000
銀和会	保全活動	①市道銀山線や遊歩道沿線の竹刈り、草刈り ②銀山川のゴミ拾い	71,058	71,000
大森町自治会協議会	大森町景観保全・美化活動	①県道仁摩邑南線沿線や、町並み・銀山川・宮ノ前地区周辺の草刈りやゴミ拾い ②大森町内の樹木の剪定	104,837	100,000
しまね樹木医会	大森地区のサクラ保護活動	①桜の維持管理に関する研修会の開催 ②大森町内の桜の樹勢回復作業	110,040	100,000
琴ヶ浜観光協会◆	琴ヶ浜の清掃	琴ヶ浜の一部エリア (バッファゾーン内) における海藻・流木・ロープなどの撤去作業	106,500	100,000
石見銀山を活かす活動 (審査事業) 石見銀山遺跡の魅力を高め、来訪者の満足度を高める活動 補助率 : 2/3 以内 限度額 : 200 万円				
NPO法人緑と水の連絡会議	石見銀山世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアーアー	①ボランティアツアーアーによる竹刈り ②ツアーパートナーへの石見銀山ガイド	944,500	629,000
石見銀山ガイドの会	銀の道を歩く	石見銀山街道や遺跡見学道のウォーキングイベント (ガイドツアー) 実施	927,550	554,000
大田市観光協会◆	石見銀山緊急時対応マニュアル及びカタログ別観光マップ作製	①石見銀山を安心、安全な観光地とすることを目的とした緊急時対応マニュアル作成 ②観光施設、観光名所マップ作製	1,494,120	996,000
石見銀山を究める活動 (審査事業) 石見銀山遺跡に関する学術的調査や研究活動 補助率 : 2/3 以内 限度額 : 100 万円				
石見銀山の非文字史料を知る会	石見銀とその関連資料の調査研究	関東、山口、愛知における石州銀の類例調査とり ストの作成	215,181	142,000
石見銀山を伝える活動 (審査事業) 石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動 (対象 : 一般) 補助率 : 2/3 以内 限度額 : 50 万円				
石見銀山地質研究会	石見銀山の地面の下を探ろう	仙ノ山が属する大江高山群の地質調査	173,669	115,000
NPO 法人しまね歴史文化ネットワークもくもく	2011 石見銀山三日籠り	石見銀山の歴史、生活、文化や遺跡調査等に関する講座とフィールドワーク等を組み合わせた 3泊 4日の講座を開催	1,780,814	326,000
石見銀山とり・むし・はなの研究会◆	石見銀山の動植物を知り、伝える	世界遺産石見銀山のエリアにおける動植物研究	33,075	22,000
石見銀山を伝える活動 (認定事業) 石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動 (対象 : 小・中学生) 補助率 : 10/10 限度額 : 10 万円				
大田市内小・中学校	石見銀山学習	大田市内の小・中学校 (21 校) の石見銀山遺跡関連学習 (遺跡見学、体験学習、学習発表等)	1,169,055	1,069,605
計 (13 団体)			7,241,889	4,324,605

※ 団体名の上に◆印のあるものは 2 次募集で選定された事業

※ 「伝える活動」の小・中学校 21 校の申請はまとめて 1 件として掲載している

※ 上表の事業費及び補助金額は実績額

●石見銀山基金事業公開審査会の開催状況

1 次選定 募集期間 : 平成 22 年 10 月 11 日～12 月 20 日

公開審査会 : 平成 23 年 11 月 23 日 開催

事業選定 : 審査事業 5 団体 認定事業 5 団体 計 10 事業

2 次選定 募集期間 : 平成 23 年 14 月 11 日～15 月 31 日

公開審査会 : 平成 23 年 17 月 10 日 開催

事業選定 : 審査事業 1 団体 認定事業 2 団体 計 3 事業

2. 平成 24 年度石見銀山基金事業

(単位：円)

申請団体名	事業名	事業概要	事業費	補助金額
石見銀山を守る活動（認定事業）	石見銀山遺跡地内で実施する草刈り、竹刈り及びゴミ拾い活動	補助率：10/10 限度額：10 万円		
馬路地区社会福祉協議会	クリーン銀山・鞆ヶ浦	銀や銀鉱石の積出港である鞆ヶ浦と石見銀山街道鞆ヶ浦道を対象とした草刈りやゴミ拾い	98,620	98,000
大森町自治会協議会◆	保全、美化活動	①遊歩道や史跡、大森町内の草刈りやゴミ拾い ②大森町内の桜の剪定作業	101,286	100,000
NPO法人まち・ゆめ応援団◆	世界遺産温泉津地区 コアゾーンの保全整備	①櫛山城跡や沖泊港付近の漂流物処理や草刈り ②石見銀山街道温泉津地区の保全整備	104,400	100,000
石見銀山を活かす活動（審査事業）	石見銀山遺跡の魅力を高め、来訪者の満足度を高める活動	補助率：2/3 以内 限度額：200 万円		
NPO法人緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアーアー	①森林（竹林）整備を軸としたグリーンボランティアツアーアーの企画・実施 ②ツアーの参加者を対象とした石見銀山遺跡ガイダンス	967,680	609,000
大田市観光協会◆	宿泊・温泉マップ、季節イベント、名所マップ作製	宿泊・温泉マップ、季節イベント・名所マップの作製	0	0
石見銀山を究める活動（審査事業）	石見銀山遺跡に関する学術的調査や研究活動	補助率：2/3 以内 限度額：100 万円		
石見銀山の非文字史料を知る会	石見銀とその関連資料の調査研究	石州銀の類例調査 石見銀山の調査研究を多角的に進めるための資料作成	211,569	136,000
石見銀山の景観を考える会	石見銀山の古木調査	石見銀山遺跡の古木調査、データベースの作成 シンポジウムの開催	942,060	583,000
石見銀山を伝える活動（審査事業）	石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動（対象：一般）	補助率：2/3 以内 限度額：50 万円		
石見銀山地質研究会	石見銀山の地面の下を探ろう	仙ノ山が属する大江高山群の地質に関する学習会の開催	346,463	230,000
NPO 法人しまね歴史文化ネットワークもくもく	2012 石見銀山三日籠り	石見銀山の歴史、生活、文化や遺跡調査等に関する講座とフィールドワーク等を組み合わせた3泊4日の講座を開催。Uターン希望者の発掘や外国人対応観光システムのモニタリング	1,691,354	500,000
石見銀山ガイドの会◆	2012 年銀の道を歩く～尾道から大阪へ～	世羅町宇津戸から大阪までをバス、徒歩、船で移動し、大阪の銀座があつた長堀橋付近を終点とするウォーキングイベントの開催	652,865	435,000
石見銀山とボルトガルを結ぶ会◆	世界遺産登録 5 周年記念～石見銀山とボルトガルのゆかりを訪ねる集い～	石見銀山とボルトガルの関わりをテーマとした3部構成のシンポジウムの開催。【基調講演、パネルディスカッション、記念コンサート（ボルトガル伝統音楽の演奏）】	672,515	448,000
「石見銀山の魅力を伝え、活かす」会◆	世界遺産・石見銀山伝	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を写真パネルや登録認定証レプリカの展示などで多面的に紹介 【東京の丸の内ビルディングにおいて開催された「石見銀山伝」（主催：「石見銀山伝」実行委員会）に共催者として参画】	736,260	490,000
石見銀山とり・むし・はなの会◆	石見銀山の動植物を知り、伝える	①野鳥、山野草、蝶の定期的な観察 ②温泉津町福光のウミネコの観察	104,239	69,000
石見銀山を伝える活動（認定事業）	石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動（対象：小・中学生）	補助率：10/10 限度額：10 万円		
大田市内小・中学校	石見銀山学習	大田市内の小・中学校（20 校）の石見銀山遺跡関連学習（遺跡見学、体験学習、学習発表等）	1,216,909	1,216,909
土江子ども神楽団	「ホイアン日本祭」公演旅行 事前研修会	石見銀山の歴史や価値についての学習。【ベトナム・ホイアン市において平成24年8月23日～28日の日程で開催された「ホイアン日本祭」での神楽公演に備えた事前学習】	157,762	157,762
計（15 団体）			8,003,982	5,172,671

※ 団体名の上に◆印のあるものは 2 次募集で選定された事業

※ 「伝える活動」の小・中学校 20 校の申請はまとめて 1 件として掲載している

※ 上表の事業費及び補助金額は実績額

●石見銀山基金事業公開審査会の開催状況

1 次選定 募集期間：平成 23 年 10 月 1 日～11 月 30 日
公開審査会：平成 24 年 1 月 22 日（日）開催
事業選定：審査事業 5 事業 認定事業 3 事業 計 8 事業

2 次選定 募集期間：平成 24 年 4 月 1 日～5 月 31 日
公開審査会：平成 24 年 7 月 8 日（日）開催
事業選定：審査事業 5 事業 認定事業 2 事業 計 7 事業

3. 平成 25 年度石見銀山基金事業

(単位：円)

申請団体名	事業名	事業概要	事業費	補助金額
認定事業				
石見銀山を守る活動	石見銀山遺跡地内で実施する草刈り、竹刈り及びゴミ拾い活動	補助率：10/10 限度額：10 万円		
琴ヶ浜の鳴り砂を守る会	琴ヶ浜の清掃	石見銀山遺跡のバッファゾーンである琴ヶ浜の清掃（海藻・流木・ロープ等の撤去・保全美化活動）	99,000	99,000
大森町自治会協議会	保全美化活動	①大森町内の草刈り・缶拾い ②遊歩道の保全・清掃作業 ③梅の剪定と苗木の植栽	101,189	100,000
祖式元気なまちづくりの会	「矢滝城跡」を守る活動	石見銀山遺跡のコアゾーンに位置する「矢滝城跡」に至る誘導路の草刈り・ゴミ拾い	109,998	100,000
島根中央高校	石見銀山の保全活動	1.2 年生 93 名による本谷地区釜屋間歩周辺の野積みされた竹を運びだしチップ化処理を行い遺跡の維持活動を実施	49,230	49,000
大森町文化財保存会	景観保存整備事業	雪害による倒木の切り出し、撤去、清掃等	100,244	100,000
石見銀山を守る活動	(1) 老朽化等により倒壊のおそれがある国・県・市の指定文化財の建築物で所有者だけでは実施困難な修理活動 補助率：自己負担額の 1/2 以内 限度額：1,000 万円			
宗教法人 西本寺	西本寺山門保存修理工事	市指定文化財に指定されている西本寺山門を良好に維持するため、屋根の葺替え、軸組・基礎の補正等の半解体修理	5,775,000	482,000
宗教法人 龍御前神社	恵比須神社解体調査工事	県指定文化財に指定されている恵比須神社社殿を良好に維持するため、来年度からの保存修理工事にむけた解体調査を行う	3,780,000	316,000
石見銀山を守る活動	(2) 上記(1)以外の伝統的建造物群保存地区の個人所有ではない伝統的建築物の修理活動 補助率：自己負担額の 1/2 以内 限度額：500 万円			
宗教法人 城上神社神社	城上神社本殿、随神社、瑞垣保存修理工事	城上神社社殿を良好に維持するため、経年劣化により傷みの出ている屋根、縁廻り、石垣等の保存修理	14,553,000	1,455,000
宗教法人 井戸神社	井戸神社本殿保存修理工事	井戸神社本殿を良好に維持するため、経年劣化により傷みの出ている屋根廻り、木階、縁側、浜縁などの足元廻りの保存修理	5,323,500	532,000
宗教法人 西楽寺	西楽寺本堂及び鐘楼保存修理工事	西楽寺本堂、鐘楼を良好に維持するため、本堂の内陣・外陣の補修、鐘楼の土台腐朽部の取替え等の保存修理	3,769,425	376,000
審査事業				
石見銀山を守る活動	石見銀山遺跡に由来する伝統文化などの保存・振興活動	補助率：2/3 以内 限度額：50 万円		
大森町自治会協議会	「大森町住民憲章」の看板作成	世界遺産石見銀山を未来に引き継ぐことを目的として町の方について定めた「大森町住民憲章」を記した看板（移動式）の作成及び設置	218,725	145,000
石見銀山を活かす活動	石見銀山遺跡の魅力を高め、来訪者の満足度を高める活動	補助率：2/3 以内 限度額：200 万円		
NPO法人緑と水の連絡会議	石見銀山世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアーア	①森林（竹林）整備を軸としたグリーンボランティアツアーアの企画と募集 ②森林整備作業（伐採竹の活用）の実施と作業参加者への石見銀山ガイドンス	1,027,834	600,000
島根県現代彫刻振興委員会	みんなでつくろう福光石彫ワークショップ ～触って感じる彫刻 in 石見銀山～	①小学生から一般までを対象として行う、地元産材である福光石を使用した参加型彫刻ワークショップ ②会期中の公開制作を柱とした、福光石の遺跡との関連検証と彫刻的活用 ③公募による彫刻の制作展示と作家間及び石見銀山住民との文化交流	2,272,712	1,500,000
NPO法人しまね歴史文化ネットワークもくもく	「石見銀山三日籠り」2013	石見銀山の歴史や生活、関連する分野をテーマにした講座や遺跡踏査、街道、町並み探索などのフィールドワーク、地域の商業者や住民とのセッションなどを組み合わせた3泊4日の滞在型体験講座の開催（夏と秋に各1回）	2,553,688	1,702,000
石見銀山を伝える活動	石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動 (対象：一般)	補助率：2/3 以内 限度額：50 万円		
石見銀山地質研究会	世界遺産石見銀山エリアにおける地質研究と啓蒙活動	①大江高山火山群とその周辺の地形や地質に関する研修・研究（石見銀山の成因や火山群全体の形成過程を探る） ②継続的な研修会の開催	468,199	278,000
NPO法人プロジェクトゆうあい	石見銀山のパリアフリー観光情報の発信事業	石見銀山をテーマとしたパリアフリー観光情報誌の作成・発行（発行中のフリーペーパー「てくてく日和（季刊）」のうち 1 号を石見銀山特集号とする）	754,700	500,000
石見銀山とり・むし・はなの会	石見銀山の動植物を知り、伝える	世界遺産石見銀山のエリアにおける動植物の分布調査と普及・広報活動	136,413	90,000
石見銀山ガイドの会	石見銀山ガイド養成講座	一般市民を対象とした石見銀山ガイド養成講座の実施（講座終了後に石見銀山ガイドの会の会員としてガイド活動ができる人材を養成する）	70,983	47,000
石見銀山を伝える活動	石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動（対象：一般）	補助率：2/3 以内 限度額：50 万円		
家の女たち◆	石見銀山の暮らしの小冊子「仕舞う（しまう）」刊行	石見銀山の武家や商家に伝わる家財の仕舞い方の調査結果をまとめた小冊子「仕舞う（しまう）」を刊行し、石見銀山で育まれた暮らしの知恵と工夫を紹介	1,268,000	500,000
NPO 法人納川の会◆	2014 年 大森町民元氣カレンダー	大森町の遺跡、施設、イベントなどを背景に大森町に暮らす住民と居合わせた観光客などと一緒に撮影し、大森町に暮らす住民とその住民が守り続けてきた景観をカレンダーにして後世に残す	302,693	200,000

(単位：円)

申請団体名	事業名	事業概要	事業費	補助金額
認定事業				
石見銀山を伝える活動	石見銀山遺跡の価値やユネスコの精神である平和と人権尊重の学習活動及び啓発活動（対象：小・中学生） 補助率：10/10 限度額：25万円			
大田市内小・中学校	石見銀山学習	大田市内の小・中学校（17校）の石見銀山遺跡関連学習（遺跡見学、体験学習、学習発表等）	1,253,860	1,253,860
計（21団体）			43,988,393	10,424,860

- ※ 平成25年度事業より、認定事業は選定委員会における審査対象とはせず、書類審査によって事業認定を行う。
(随時募集)
- ※ 団体名の上に◆印のあるものは2次募集で選定された事業
- ※ 「伝える活動」の小・中学校17校の申請はまとめて1件として掲載している
- ※ 上表の事業費及び補助金額は実績額

●石見銀山基金事業公開審査会の開催状況

1次選定 募集期間：平成24年10月25日～12月10日
 公開審査会：平成25年2月17日（日）開催
 事業選定：審査事業 8事業

2次選定 募集期間：平成25年4月1日～5月31日
 公開審査会：平成25年6月29日（土）開催
 事業選定：審査事業 2事業

NPO 法人石見銀山協働会議会報 第 1 号

2015 年 3 月 30 日 発行

発行者 特定非営利活動法人石見銀山協働会議
〒699-2301 大田市仁摩町仁万 562-3
(大田市役所仁摩支所内)
TEL 0854-88-9023 FAX 0854-88-9024

印刷所 急行印刷
〒694-0064 大田市大田町大田イ 147
TEL 0854-82-9595
